



「コミュニケーション」 ～豊かな関係性の中で～

多くの学校では、校務分掌に研究活動を位置付けています。自校の教育課題等に応じた研究主題を設定し、研究授業や研修会を行うなどしながら校内研究として進めていきます。

本分教室がゆり支援学校（養護学校）の分教室となった平成22年度からの研究主題は別紙のとおりです。

主題は様々ですが、内容を見ると共通して「コミュニケーション」がキーワードとして浮かび上がります。本分教室の児童生徒は反応が微細で、受け取る側（教師）はその読み取りに難しさを感じることも少なくありません（※）。このような実態等により、コミュニケーションに係る指導や支援の難しさがあったのでしょうか。

※参考：本ホームページ「研究・研修年間計画」

コミュニケーションについて、次のような考え方があります。

コミュニケーションは、相互の分かり合いのプロセスである。したがって、私たちがコミュニケーションの主体である子どもたちとの間に快適な体験を共有しようとする試みがなければ、子どもたちとのコミュニケーションは閉ざされることになる。一方、私たちがコミュニケーションの主体である子どもたちとの間に快適な体験を共有しようとする試みは、子どもたちの障害の重さを限りなく軽減することになると思われる。
(2001 秋田県総合教育センター講座資料 元文教大学教授 今野 義孝 氏)

「この人（先生）といると楽しいな。何か伝えたいな。」というような思いが湧く関係性にある時、子どもたちは私たちに表現を向けてくれ、コミュニケーションは広がっていくのかもしれない。

これからも、子ども達との豊かな関係づくりを基本姿勢にしながら・・・



* 文中の今野義孝氏は、由利本荘市（旧 由利町）出身で、秋田県の動作法の訓練会（心理リハビリテーション教育研究会）に長年スーパーバイザーとして携わっていただいた方です。

道川分教室研究主題変遷

- 平成22年度 「一人一人が周囲とかかわる力を伸ばすための支援の在り方」
- 平成23年度 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業の創造を求めて(1年次)」
～児童生徒の主観に迫る的確な実態把握とは～
- 平成24年度 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業の創造を求めて(2年次)」
～自発的に活動する姿を育む状況作りとは～
- 平成25年度 「集団の中で個が生きる授業づくりを目指して」
～分かりやすい状況を作る4つの観点を生かして～
- 平成26年度 「コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり(1年次)」
～個々のニーズにあった教材・教具の工夫、改善を通して～
- 平成27年度 「コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり(2年次)」
～4つの観点を大切にした支援の在り方～
- 平成28年度 「人との関わりを広げる授業づくり(1年次)」
～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～
- 平成29年度 「人との関わりを広げる授業づくり(2年次)」
～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～
- 平成30年度 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり(1年次)」
～自立活動における個別学習の指導を通して～
- 令和元年度 「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり(2年次)」
～自立活動における個別学習の指導を通して～
- 令和2年度 「児童生徒による学習評価の充実(1年次)」
～自立活動の授業づくりを通して～